



Welcome party 2015 (April 6, 2015)

By Shuhei Tanaka, associate professor, GSGES

On April 6, 2015, a welcome party was held in Comphora for the Graduate School of Global Environmental Studies for the 2015 academic year. Professor Fujii (Dean of GSGES) presented the welcoming address and described GSGES activities. This was followed by the new students introducing themselves, along with faculty staff members and students who had attended GSGES previously. Overall, about 100 members of the GSGES took part.

2015年4月6日にレストランカンフォーラにて、京都大学地球環境学部の2015年度新入生歓迎会が開かれました。最初に藤井滋穂地球環境学部長から挨拶が行われ、その後、新入生、教職員、パーティに参加した関係学生の自己紹介が行われました。約100名の参加者が楽しい時を過ごしました。



地球環境学舎新入生歓迎会の様子

Contents

Welcome party 2015 (April 6, 2015).

Global Environmental Forum: "People and the natural environment of the savanna zone, West Africa" (May 24, 2015).

GSGES applauds students' graduation (March 23, 2015).

AY2014 graduates hold appreciation party (March 23, 2015).

Certificates and guidance for CoHHO students (March 23, April 8, 2015).

CoHHO Symposium on "The Power of Community to Develop the Connectivity Between Humans and Nature; Challenges Faced by Companies Located in the Lake Biwa Area" (December 14, 2014).

Conclusion of faculty-level exchange agreement with Banaras Hindu University (March 26-28, 2015)

Visit of Indian delegation to Kyoto University to discuss future collaboration in Varanasi City (April 20, 2015).

Visit to the headquarters office of the Japan Society for the Promotion of Science (JSPS) (March 20, 2015).

Hannari Kyoto Shimadai-juku looks at "Ways of doing business" (March 3, 2015).

Internship debriefings held at GSGES (April 24, May 8, 15, 2015).

Six-month special audit students give study plan presentations (April 16, 2015).

Introduction of the overseas organization cooperating with GSGES (2): The University of Da Nang (UD) and The Da Nang University of Science and Technology (DUT)

Dispatches from researchers on the JSPS Future Earth program (4): Reports on INRA Bordeaux and Université des Lorraine.

Dispatches from researchers on the JSPS Future Earth program (5): Studies in Tanzania and Cameroon.

Ms. Tokitoh, a student in the global environmental studies course, was presented with an award from the association for rural planning (April 11, 2015)

Assistant Professor Atsushi Takai wins the Yamada Kazuie Award (June 6, 2015).

Announcement

GSGES to hold an international symposium in Da Nang, Vietnam (July 27-29, 2015).

The 37th annual symposium by the association of Environmental & Sanitary Engineering Research (July 31, August 1, 2015).

International year of soils traveling exhibition "What is soil?" (September 2-13, 2015).



Global Environmental Forum: “People and the natural environment of the savanna zone, West Africa”

(May 24, 2015)

By Naoki Okada, associate professor, GSGES

The 22nd Kyoto University Global Environmental Forum, entitled “People and the natural environment of the savanna zone, West Africa”, was held on May 24 at International Exchange Hall I in the Clock Tower Centennial Hall. Associate Professor Hitoshi Shinjo (GSGES, Kyoto University) explained that wind erosion has caused the loss of soil nutrients from agricultural land, and addressed the necessity of making simple technology available to the local people in order to prevent desertification. Dr. Ould Koutaro Maeno (Hakubi Center, Kyoto University) gave an entertaining presentation, including film footage of a cloud of black locusts, and addressed the importance of early pest control in order to prevent outbreaks. Emeritus Professor Toshiyuki Wakatsuki (Shimane University) described his long-standing involvement with the establishment of rice cultivation techniques in West Africa, and explained how collaboration with Asian countries will, in the future, promote food production and the environmental rehabilitation of the region. The talks by these professors strongly impressed on participants the difficulties involved in working in countries with different social and cultural backgrounds.

第22回京都大学地球環境フォーラム「西アフリカ・サバンナ帯の人と自然」を2015年5月24日、京都大学百周年時計台記念館国際交流ホールIにおいて開催しました。西アフリカ・サハラ砂漠以南には半乾燥地であるスーダンサバンナからやや湿潤なギニアサバンナと呼ばれる地域が広がっています。このサバンナ帯は、砂漠化の進行、旱魃や害虫の大量発生による飢饉の発生など、人間が生きていくうえでは過酷な自然環境下にあります。今回の地球環境フォーラムでは、西アフリカで長年にわたって研究活動を行ってきた3人の演者から現地での自然とそこでの暮らしについて以下の報告を受け、総合討論を行いました。

<プログラム>

- 真常仁志（地球環境学准教授）「砂漠化対処への地球環境学の挑戦」



第22回地球環境フォーラムの様子

- 前野ウルド浩太郎（京都大学白眉センター助教）「破滅の化身『バッタ』との闘い-サハラの静寂を守るため」
- 若月利之（島根大学名誉教授）「アフリカ水田農法とアジア・アフリカ連携」

真常准教授は、風食による砂漠化が土壌養分の損失を生み、これが農業生産の低下をもたらすことを説明し、住民による実践が可能な砂漠化対処技術の開発が必要であることを指摘しました。前野博士は、大発生によって農作物に壊滅的な被害をもたらすサバクトビバッタの生態について動画をまじえて解説し、大発生の前の防除が大切であること、それを達成するためには野外での生態研究が重要であることを強調しました。若月名誉教授は、30年にわたる自らの実践を紹介しながら、アフリカ水田農法の普及が食料増産と劣化環境保全につながることを解説し、インドネシアや中国などアジアの国の連携が今後は重要になっていくと述べました。

総合討論では、言葉も文化も異なる西アフリカで調査研究や技術の普及を行うことの困難性や、移転しようとする研究手法や技術がなかなか定着しないなどの点が語られました。サバクトビバッタの大群の映像は観る者に強い印象を与えたと見え、複数の参加者から食料として利用できないのかという質問が出ました。西アフリカという地域の問題が地球全体の問題へとつながっていて、解決のために私たちにどのようなことが出来るのかを考えるきっかけとなったフォーラムでした。

GSGES applauds students' graduation (March 23, 2015)

By Yuji Suzuki, researcher, GSGES

On March 23, GSGES held the AY2014 degree conferment ceremony and 43 master's course students and seven doctoral course students received certificates from Professor Fujii, the dean of GSGES. The graduates were understandably proud of their achievements.

平成27年3月23日、総合研究5号館大講義室において地球環境学舎学位授与式を開催しました。修士課程の学生43人と博士後期課程の学生7人が修了を迎え、藤井滋穂学舎長より学位記を授与されました。

2014年度の地球環境学優秀論文発表賞には Tran Nam Haさん（環境適応生体システム論）、小野亮輔さん（環境調和型産業論分野）、時任美乃理さん（地球益経済論分野）、才野英里子さん（地球環境政策論分野）、福本想さん（水域生物環境論）が選出され、その卓越した修士論文発表に対して表彰がなされました。



地球環境学舎学位授与式の様子



地球環境学舎学位授与式での記念撮影

藤井学舎長からの祝辞に続き、修士課程の学生を代表して Tran Nam Ha さんが、博士後期課程の学生を代表して Glenn Fernandez さんが挨拶をしました。最後に修了生全員での写真撮影が行われました。修了生達が藤井学舎長や指導教員の先生方と記念撮影をする姿は笑顔に満ち溢れ、2年間の学生生活を締めくくる喜びを分かち合っている様子が伺えました。

修了生のみなさまが地球環境学舎で得たたくさんの経験と思い出を糧に、社会で大いに活躍されることをお祈り致します。

**AY2014 graduates hold appreciation party
(March 23, 2015)**

By Yuji Suzuki, researcher, GSGES

After the degree conferment ceremony on March 23, GSGES's AY 2014 graduates threw a party for the faculty and staff in order to



地球環境学舎謝恩会の様子

express their appreciation. The graduates attending were resplendent in their formal wear and national costumes - helping to make the party a great success.

平成 27 年 3 月 23 日、地球環境学舎学位授与式の後、ほとと（京都大学北部生協会館 2 階）にて、地球環境学舎謝恩会が開かれました。修了生主催の謝恩会は 5 年目を迎え、修了生に加えて多くの教職員や在校生が参加する賑やかな会となりました。

地球環境学舎は京都大学大学院の中でも女子学生の比率が高く、多くの留学生を受け入れていることが特徴です。会場には女子学生の袴やドレスの華やかな姿、母国の民族衣装をまとった留学生の煌びやかな姿が多くみられ、式を彩っていました。会場ではあちらこちらで日本語、英語、留学生の母国語での会話に花が咲いており、グローバルな大学院の雰囲気でもまれていました。

しばらくの歓談の後には、修了生代表から教職員に向けた感謝の思いが述べられ、教職員を代表して藤井学舎長および廣瀬教務掛長へ花束が贈られました。その後、インターン研修中の出来事や修士論文研究のエピソード等、教職員や学生間で話題が尽きず、参加者各々が再会を誓って謝恩会は盛会のうちに終了しました。修了生のみなさまの今後の活躍をお祈り致します。

**Certificates and guidance for CoHHO students
(March 23, April 8, 2015)**

By Michiko Hasegawa, researcher, CoHHO Educational Unit

The “Connectivity of Hills, Humans and Oceans” (CoHHO) educational program held its second certification ceremony on March 23, when 23 students received certificates for successfully completing the course. On April 8, the next intake of students due to embark on the program were provided with course guidance.



森里海連環学教育ユニット修了式



山下ユニット長から修了証を手渡される学生

Approximately 50 people enrolled to take this course at Kyoto University.

森里海連環学教育ユニットは、2015年3月23日(月)に、旧演習林事務室において森里海連環学教育プログラム第2回修了式を執り行いました。今年度は23名(うち12名が地球環境学舎所属)の学生が修了を迎え、開講初年度だった昨年度と合わせて修了生は49名となりました。

修了式では、関係者から修了生に贈る言葉や、修了に際する万感の思いを表した修了生の言葉の中でよく言及されたのが、「違う学問分野・国の人たちと関わることの大切さ」、および「プログラムを通して手に入れた仲間の大切さ」でした。

森里海連環学教育プログラムには、農学研究科、人間・環境学研究科、地球環境学舎を始め、京都大学内のさまざまな大学院から学生が集まってきます。また、授業は基本的に英語で行われるので留学生も多く参加しています。異なる学問分野を専門とし、興味・関心の対象も多様な学生が共に学び、時には、言葉や文化の壁を越えて互いの意見を交わし、ひとつの解を見つけることが求められることもあります。森里海連環学は、森、里、海という異なる生態系間のつながり、ひいては人間と自然のつながりを解明し守ることを目指していますが、その根底にあるより普遍的な精神“自分と

異なる存在を理解し、共に生きる”ことをも学生はプログラムを通して学んでいるようです。

そして、こうした学生たちの関わり合いはプログラムがなければ生まれなかったでしょう。彼らが共に学ぶ仲間と築いた関係は、習得した知識と同じくらい価値があるものではないでしょうか。このきずなが森里海連環学教育プログラム同窓会の活動を通して今後も維持・発展されていくことが期待されます。

なお、2015年度4月8日(水)に新規履修生を対象としたガイダンスを実施し、今年度は新たに49名(うち31名が地球環境学舎所属)の学生を迎えることとなりました。

CoHHO Symposium on “The Power of Community to Develop the Connectivity Between Humans and Nature; Challenges Faced by Companies Located in the Lake Biwa Area” (December 14, 2014)

By Michiko Hasegawa, researcher, CoHHO Educational Unit

The Educational Unit for Studies on CoHHO (Connectivity of Hills, Humans and Oceans) held a symposium entitled “The Power of Community to Develop the Connectivity Between Humans and Nature; Challenges Faced by Companies Located in the Lake Biwa Area” in Kyoto on December 14,



聴衆で埋められた会場



パネルディスカッションの様子

2014. This symposium focused on progressive approaches to environmental conservation and regional development by companies conducting business around Lake Biwa. Over 150 people participated in this symposium.

森里海連環学教育ユニットは、2014年12月14日(日)にキャンパスプラザ京都で森里海シンポジウム「『人と自然のつながり』を育てる地域の力ー淡海(おうみ)発・企業の挑戦ー」を開催しました。年の瀬の慌ただしい時期にもかかわらず多くの方にお越しいただき、来場者は150名を超えました。

今回のシンポジウムでは、琵琶湖の周りでビジネスを営む企業の先進的な環境保全や地域振興に焦点を当て、森・里・海の連環を維持するために「企業」という主体が担える事・担うべき事について考えました。初めに、長年にわたって琵琶湖を研究されてきた嘉田由紀子氏に基調講演をしていただきました。次に、たねや農藝、コクヨ工業滋賀、滋賀銀行に自社の取り組みを紹介していただき、政治学、経済学・経営学、生態学といった学術的観点から3社の取り組みを再考しました。最後に、講演者に再度登壇していただき、会場からの質問も交えさらに議論を深めました。

来場者アンケートでは、多くの方から「今日の内容に満足している」「参加して有意義だった」という回答をいただきました。また、環境保全や地域振興における企業への期待、実際に企業が取り組んでいく上での課題などについてもご意見をお寄せいただきました。さらに、嘉田氏を始め、講演者の方からも「企業の活動に焦点を当てたのは画期的である」「これからも続けて欲しい」というご意見をいただきました。

<プログラム>

○基調講演

「人と自然のつながりを活かす未来型の企業活動を淡海から一研究者知事として挑戦したことー」(前・滋賀県知事 嘉田由紀子)

○事例紹介

たねや農藝(讃岐和幸)

コクヨ工業滋賀(前田賢一)

滋賀銀行(辰巳勝則)

○森里海連環学からみる淡海の企業の挑戦

「環境ガバナンス・地域振興」(森里海連環学教育ユニット 吉積巴貴)

「企業活動と環境」(地球環境学堂 吉野章)

「森林・里山環境」(地球環境学堂 柴田昌三)

○パネルディスカッション

「森里海連環を通じた”ものづくり””ひとづくり””地域づくり”」

(パネリスト: 嘉田由紀子、讃岐和幸、前田賢一、辰巳勝則、柴田昌三)

(コーディネーター: 森里海連環学教育ユニット 清水夏樹)

Conclusion of faculty-level exchange agreement with Banaras Hindu University (March 26-28, 2015)

By Koichi Shiwaku, researcher, GSGES, Shaw Rajib, professor, GSGES

Professor Shigeo Fujii (Dean, GSGES), Professor Shaw Rajib (GSGES), Dr. Koichi Shiwaku (a researcher at GEGES) and Ranit Chatterjee (a research student at GSGES) visited Varanasi City, India, on March 26-28, 2014, and concluded a faculty-level exchange agreement with Banaras Hindu University (BHU). During the visit, they met with the President of BHU and the Mayor of Varanasi City to discuss further collaboration.

Banaras Hindu University (以下、BHU) はインド国内において非常に著名な総合大学です。本学とBHUは京都市とインド・バラナシ市との間のパートナーシティ提携意向の下、調査研究を進めてきました。2015年3月26日から28日にかけて、藤井滋穂 地球環境学堂長、ショウラジブ 地球環境学堂教授、塩飽孝一 地球環境学堂特定研究員、Ranit Chatterjee 地球環境学舎研究生の一団が、インドのバラナシ市を訪問し、関係者との面談およびBHUの環境および持続可能な開発研究所 (Institute of Environment and Sustainable Development) との部局間交流協定締結を行いました。

3月26日に、Girish Chandra Tripathi BHU 学長との面談を行い、部局間交流の発展に向けてBHUが本交流に尽力することが確認されました。また、バラナシ市役所の協力を



部局間交流協定締結の様子



得て実施した、バラナシ市の気象災害に対するレジリエンス調査の報告書を贈呈しました。

3月27日には、部局間交流協定締結を前にバラナシ市役所を訪問し、Ram Gopal Mohley バラナシ市長との面談を行い、一団から調査への協力に対し、謝意を示しました。また、今後のさらなる協力が確認されました。

バラナシ市役所訪問後、京都市・バラナシ市パートナーシップに関する会合を行い、地球環境学堂とBHUの環境および持続可能な開発研究所との部局間交流協定を締結しました。その後、ショウ教授がバラナシ市の調査結果の概要を示しました。この会合には、環境および持続可能な開発研究所の所長であるAkhilesh Raghubanshi教授を始め、Mohley市長、インド国外務省および都市開発省、インド側の京都市・バラナシ市パートナーシップ運営委員会、在インド日本大使館が出席しており、部局間交流の発展に大きな期待が寄せられました。

今回のバラナシ市の訪問と部局間交流協定締結は現地でも注目を浴び、多数のインドの一般紙にも取り上げられました。

Visit of Indian delegation to Kyoto University to discuss future collaboration in Varanasi City (April 20, 2015)

By Koichi Shiwaku, researcher, GSGES, Shaw Rajib, professor, GSGES

An Indian delegation visited Kyoto University on April 20, 2015, helping develop the partnership between Kyoto City and Varanasi City. During this visit, GSGES organized a meeting with the Executive Vice President of the university, a campus tour, and a workshop on environment and disaster management. Useful discussions were carried out between Kyoto University and the delegation regarding future collaboration designed to address environment- and disaster-related issues in Varanasi City.

京都大学大学院地球環境学堂とインドのBanaras Hindu University (BHU)の環境および持続可能な開発研究所 (Institute of Environment and Sustainable Development) は、2015年3月27日に部局間交流協



ワークショップでの集合写真

定を締結しました。今後、教育や研究の分野での交流が期待されますが、その一環として、京都市とインド・バラナシ市間のパートナーシティ提携意向の下、2015年4月20日、インドの代表団5名（都市開発省局長、バラナシ市長、バラナシ県長官、バラナシ市開発公社総裁、バラナシ市管理官）が来学しました。稲葉カヨ理事表敬を始め、本学施設見学、ワークショップ、昼食会を開催しました。

ワークショップは3つのセッションで構成されており、セッション1では藤井滋穂 地球環境学堂長が地球環境学堂の紹介をしました。セッション2では、環境や公衆衛生に関して、工学研究科の清水芳久教授、伊藤禎彦教授、田中宏明教授、地球環境学堂の高岡昌輝教授から、それぞれ、持続可能な総合流域管理、給水システム、下水処理システム、廃棄物処理についての発表がされました。セッション3では、地球環境学堂の西前出准教授が土地利用計画、柴田昌三教授が景観計画、ショウラジブ教授がバラナシ市の気象災害に対するレジリエンスについて発表しました。各セッションの発表後には代表団との活発な議論が行われ、都市部の給水システム、下水処理、廃棄物管理、公的機関の組織強化、土地利用計画、景観計画、都市防災に関するバラナシ市の現状や日本の知見を共有することができました。ワークショップには代表団と発表者の他、田中周平地球環境学堂准教授、地球環境学舎学生、インド大使館及び総領事館、京都市役所など総勢27名が参加しました。

バラナシ市は継続して人々が居住してきたという点では世界最古の都市です。ガンジス川流域に位置し、文化や自然環境等で著名な都市であり、京都とも多くの類似点を持っています。インド代表団の来学では、非常に有意義な議論が展開されました。京都大学と、BHUやバラナシ市役所等公的機関との今後のさらなる協働が期待されます。

Visit to the headquarters office of the Japan Society for the Promotion of Science (JSPS) (March 20, 2015)

By Kazuyuki Oshita, associate professor, GSGES

Professor Shigeo Fujii (Dean, GSGES) and Associate Professor Kazuyuki Oshita visited the headquarters office of the Japan Society for the Promotion of Science (JSPS) on March 20, 2015. Professor Fujii described the global expansion of educational and research activities undertaken by GSGES, especially in the JSPS Core-to-Core Program: “Formulation of the Cooperation Hub for Global Environmental Studies in the Indochina Region,” and in the Program for Advancing Strategic International Networks to Accelerate the Circulation of Talented Researchers: “International Network-hub for Future Earth: Research for Global Sustainability”.

藤井滋穂 地球環境学堂長と大下和徹 地球環境学堂准教授が、2015年3月20日に、独立行政法人日本学術振興会 (JSPS) 国際事業部研究協力課、および人材育成事業部海外派遣事業課を訪問しました。藤井学堂長より、地球環境学堂の教育や研究活動の世界展開について、説明を行いました。特に現在実施中のJSPS研究拠点形成事業：インド



JSPS 国際事業部研究協力課 (上)、人材育成事業部海外派遣事業課 (下)

シナ地域における地球環境学連携拠点の形成や、頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム「フューチャー・アースに貢献する国際研究ネットワーク・ハブ構築」、双方のプロジェクトにおける平成 25 年度、平成 26 年度の活動実績や現在の状況についても報告を行いました。これらの事業の今後の在り方や JSPS への要望事項も含め、活発な意見交換が行われ、大変有意義な訪問となりました。

Hannnari Kyoto Shimadai-juku looks at “Ways of doing business” (March 3, 2015)

By Akira Yoshino, associate professor, GSGES

The 32nd Hannnari Kyoto Shimadai-juku – entitled “Ways of doing business” was held on March 3 at Shimadai, Kyoto. Mr. Michihiro Miyoshi (Chairman, Gion Tsujiri) spoke about the history of his shop “Gion Tsujiri” and Gion shopping street. Associate Professor Natsuki Shimizu (CoHHO, Kyoto University) spoke about the initiatives adopted by the Japanese confectionary store “Taneya”, located in Oumi-hachiman.

先端の地球環境学の成果を地域の生活ことばで練り直す



講師の三好道弘さんと清水夏樹さん

ことで、新たな美意識や生活作法をさぐることを目的として、毎年 3 回開催している嶋臺塾ですが、今回は第 32 回で、「商い」をテーマとして開催しました。

洛中からは、祇園辻利の会長さんである三好道弘さんにお越しいただきました。辻利さんは、辻利右衛門さんが玉露を完成させたことで有名です。三好さんは、戦中、台湾で商っておられ、戦後、引き上げてこられてから、現在の祇園のお店を開かれます。当時、花街であった祇園は、商店街としては賑わいに欠け、これを振興することから始めねばなりませんでした。1970 年代には、お茶の消費が清涼飲料水に押され、お茶自体の売り方も考えなければなりませんでした。三好さんは、「茶寮 都路里」という甘味処を始められて、これが成功します。商工会議所の立場では、様々な反対に遭いながらも、祇園商店街のアーケード化、京阪電車の地下化に尽力されました。「お茶」そのものについて、戦中から戦後にかけての変遷の中で、お茶の商いをとおして感じられた人や嗜好の変化、商いにおいて、それが置かれている場とともに賑わうことの大切さなどについてお話しいただきました。

京大からは、学堂と関連の深い森里海連環学教育研究ユニットの清水夏樹さんにご登場いただきました。清水さんには、現在、このユニットが連携している近江八幡のお菓子屋さん「たねや」さんの取り組みをご紹介いただきました。たねやさんの商いも、自らの店の繁盛のみを考えるのではなく、一店舗の枠を超えて、お店が置かれた場の振興を目指しておられます。そうした点では、三好さんの取り組みと共通していますが、こちらは商店街ではなく、近江八幡の地域や自然環境と共存・共栄を図る取り組みが中心となっています。環境と調和した地域づくりに、これからの商いのありかたを模索しておられるところだそうです。京大の森里海連環学とは何か、その立場から、こうした今時の商いをどのように評価できるのか、そしてどう協働できるのかについて解説をいただきました。

学堂の籠谷さんの司会に、三好さんと清水さんという味わいのある組み合わせで行われた今回の嶋臺塾、当のたねやさんからの発言もあり、また、三好さんの人柄についてのエピソードを紹介される方もおられるなど、いつもとは少し違った雰囲気の中、終始和やかに、これまでとこれからの商いについて語り合うことができました。

<内容、プログラムなど>

第 32 回 商うということ

日 時：平成 27 年 3 月 3 日 (火) 午後 6 時～8 時

洛中から：「祇園商店街に商う」

三好 通弘 氏 (祇園辻利 五代店主)

京大から：「近江八幡に商う」

清水 夏樹 (森里海連環学教育ユニット 特定准教授)

司 会：籠谷 直人 (地球環境学学 教授)

協 力：嶋臺 (しまだい)



Internship debriefings held at GSGES (April 24, May 8, 15, 2015)

By Chiho Ochiai, assistant professor, GSGES

Internship debriefings have been organized at GSGES to provide a forum for master's students (second year) and doctoral students to report back on their experiences and achievements as part of the internship program. This also offers first year master's students the opportunity to learn about the wide variety of internship options available, prior to choosing their own internship program. Three debriefings have taken place so far in the first semester - on April 24, May 8 and May 15.

These internships involved local authorities, private companies, research institutions, public schools and so on throughout Japan. Many internships were also held at overseas universities and research institutions in Vietnam, China, England and Germany. Students presented the results of their practical work and research activities while describing how they overcame various difficulties such as the local language and culture, and office protocols.

In addition to the internship debriefing, a field work seminar was organized by senior students to provide practical advice on matters such as choosing a hosting organization, building relationships with staff members at the hosting organization, obtaining appropriate visa status, etc.

インターンシップ報告会が4月24日、5月8日および5月15日の3回開催され、修士課程二回生や博士課程の学生がインターン研修で得た経験や成果が発表されました。インターン報告会は、修士課程一回生がインターン研修の様々な可能性や、受け入れ先・実施内容を学ぶ機会でもあります。国内でのインターンシップは、地方自治体、民間企業、研究所、小中学校など多彩でした。また多くの学生がベトナム、中国、イギリス、ドイツ等、海外の大学や研究所において研修を行いました。言葉や文化の違いを克服しながら研究や実践に取り組む研修内容が報告されました。加えて、インターンシップを経験した学生が主体となってフィールドワークゼミが毎回開催され、インターンシップを行う上で重要となるインターンシップ先の選定プロセス、人間関係の構築、ビザの取得など、具体的な課題が話し合われました。



インターンシップ報告会、フィールドワークゼミの様子

Six-month special audit students give study plan presentations (April 16, 2015)

By Gaku Masuda, researcher, GSGES

Four students from Indonesia (ITB, IPB), three from Vietnam (HUAF, INEST) and one from Thailand (Mahidol) who were accepted into the Graduate School of Global Environmental Studies under the G.E.S. and the research program for "Promoting the Study of a Sustainable Humanosphere in Southeast Asia", gave their first study and research plan presentations after having stayed in Kyoto for six months. This event was held on April 16 in the large meeting room, GES, Yoshida main campus.

The topics covered were: "Effectiveness of roadside trees in reducing gaseous pollutants", "Study on water and nutrition management for paddy rice production in salinized soils", "A comparison of ecological habitats between the Javan hawk-eagle (*Nisaetus bartelsi*) and the goshawk (*Accipiter gentilis*)", "Removal of perfluorooctane sulfonate (PFOS) and perfluorooctanoic acid (PFOA) by application of membrane filtration with ultrasonic enhancement", "Using system dynamics to simulate the factors affecting *Acacia* forests", "Research on a semi-aerobic landfill (Fukuoka model) and its application in Vietnam", "Developing a sustainable transportation policy using system dynamics: a case study in Bandung", and "Political corruption, a challenge to Indonesian democracy and how to deal with it". This session was followed by a welcoming ceremony and a lunch where new students were able to converse with regular students and staff. Presentation materials are available on the following page.

http://sea-sh.cseas.kyoto-u.ac.jp/report_list/#international-r-2015-ss



短期交流学生による研究計画報告会への参加者

Introduction of the overseas organization cooperating with GSGES (2): The University of Da Nang (UD) and The Da Nang University of Science and Technology (DUT)

By Hoang Hai, Dr. Director, International Cooperation Department, UD and Tran Van Quang, Prof. Dr. Dean of Faculty of Environment, DUT.

The University of Da Nang

The University of Da Nang (UD) was established following the Decree 32/CP dated April 04th 1994 of the Government. Joining 40



years of training and research tradition of member colleges (1975-2015), UD is in its 21st year of formation and development (1994-2015).

Being a major university in the biggest city of the Central Vietnam, UD is a regional multi-level, multi-disciplinary university training human resources for the Central Area and Western Highlands of Vietnam. Engineering, technology, economics, education and foreign languages are training strengths of UD. Over the last 40 years, UD and its member colleges have provided the country with hundreds of thousands of technological experts, business managers, educational managers, educators, and experts of foreign languages.

Developing UD into a Research-Oriented University by 2020 and toward a Research University with its key roles as training highly qualified workforce and being a major center of research and international exchange for the Central Area and Western Highlands of Vietnam has become the determination and strong will of UD's staff and students. The construction projects of UD Village, University of Technical Education, University of IT and Communications, University of Medicine and Pharmacy, and especially VN-UK International University are underway, which will undoubtedly create a new face for UD. The synchronous development of facilities and highly qualified and capable staff will fuel the institutional achievement of the set strategy.

Cooperative activities with Kyoto University in the area of environment

1. The official meeting between UD delegation and Kyoto University leaders took place at KU with the participation of Prof. Hiroshi Matsumoto – President of KU. One of the main activities of the Group is working with Graduate School of Global Environmental Studies and participated in Conference on “Global Environment” at the KU. The two sides have evaluated the results achieved through the internship of graduate students and PhD students of KU in recent years. Especially, the groups discussed “double degree” project for Master training conferred by KU and partner universities in Asia (including UD)(February 17, 2014).
2. Young researchers of UD's affiliations had report and interview by the professors of Kyoto University, Japan through video conference system and won the encouraging results. KU has decided to sponsor young scientists doing their research. This is an opportunity for young researchers of UD to expand research collaboration with foreign partners and increasingly tighten relationship between the UD and KU (December 10, 2014).
3. The delegation from Kyoto University led by Prof Junichi Mori, Vice President, had a meeting with leaders of the UD. At this meeting, two sides exchanged opinions on the preparations for the VN-JP university president conference which is expected to be held in late September 2015. As planned, the conference will focus on the topic of education reform in Japan and Vietnam, human resources development in the future, scholarships for Vietnamese students studying in Japan and joint-programs (June 4, 2015).

The Da Nang University of Science and Technology

The Da Nang University of Science and Technology (DUT) - a member of the University of Da Nang was established in July, 1975. DUT is one of the three leading technological universities in Vietnam that has a responsibility to train technical and technological staff as well as managers at advanced levels. DUT is also a scientific research and technology transfer center playing an important role in developing and applying advanced technologies in order to industrialize and modernize the country, especially in the central coast and central highlands.

During many years, DUT has kept expanding its scope of undergraduate and postgraduate education, building facilities, enhancing the staff's ability, and essentially innovating teaching goals, programs and methods. The number of co-operative undergraduate and postgraduate programs with overseas universities is increasing, which helps many students to approach world-class training programs. Currently, we have established relationships with more than fifty universities, centers, research institutes and educational organizations in over twenty countries in the world, taking part in many international university networks. Through international collaboration, there have been many teachers and students who have had opportunities to go overseas for study and research each year. At present, about 100 foreign students are studying in the campus in various undergraduate programs, degree programs, as well as short term academic exchange.

Quick Facts

Board of Rectors (2015 - 2020):

Rector:	Professor, Dr. Le Kim Hung
Vice - Rector:	Associate Professor, Dr. Truong Hoai Chinh
Vice - Rector:	Associate Professor, Dr. Le Thi Kim Oanh
Vice - Rector:	Associate Professor, Dr. Le Cung

Student enrollment: about 21.000 students

Instructional staff: 598 people

Academic Faculties and Centers: 14 faculties and 1 Center of Excellence

Degree Programs:	29 programs for bachelor of engineering
	15 programs for master of engineering
	13 programs for doctor of engineering

Cooperative activities with Kyoto University in the area of environment

1. Exchange of students and faculty members (internship)
2. Bilateral Collaboration in the context of Environmental Management Leader (EML) Program (from March, 2008 to March, 2013)
3. MOU signing Ceremony for Scientific Research and Academic Cooperation between DUT and GSGES - Kyoto University (3/2013).
4. Symposium in Danang for CREST Water Environment in Da Nang and New Approaches forward to 21st Century Type Water Cycle System 2014
5. Japan-Asia Youth Exchange Program in Science (18/2/2015 - 27/2/2015).
6. GSGES seeds research funding program for overseas field campuses 2015.



Dispatches from researchers involved in the JSPS Future Earth program (4): Reports on INRA Bordeaux and the Universite de Lorraine

By Masako Dannoura, assistant professor, GSGES

I am working in France at INRA (Institut National de la Recherche Agronomique) Bordeaux, at the Universite de Lorraine and INRA Lorraine, as a researcher on the JSPS Future Earth program. My research topic is to develop a better understanding of the carbon cycle in forest ecosystems by using ^{13}C labeling techniques and developing a carbon flow model. During my stay in France, ^{13}C labeling studies on pine and beech trees were conducted alongside Dr. Alexandre Bosc (INRA-Bordeaux) and Professor Daniel Epron (Universite de Lorraine).

筆者は頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラムの派遣研究者として、フランスの国立農業研究所 (INRA) ボルドーおよびロレーヌ大学に滞在しています。フランスの研究ユニットは、大学、高等教育院 (グランゼコール) および研究所 (INRA や CNRS など) など複数の機関で構成されていることが多く、例えば Alexandre Bosc 研究員の所属する INRA ボルドーの研究ユニットは、INRA ボルドー、ボルドー大学、ボルドーサイエンスアグロ (グランゼコール) に所属する研究者からなっていましたし、Daniel Epron 教授の所属するロレーヌ大学の研究ユニットはロレーヌ大学と INRA ナンシーの研究者からなり、ロレーヌ大学、アグロパリテック (グランゼコール) の学生が所属していました。実際、大学に所属する研究者も研究所にデスクがあり、研究所に所属する研究者も大学で授業を担当していたりして、それぞれの垣根は低く、自由にチームを組んで縦横に研究を進めている印象を受けました。

ボルドーではマツを、ナンシーではブナを対象に炭素安定同位体パルスラベリングによる樹木内炭素配分の測定と、それを用いた葉内の炭素移動モデルの開発に取り組んでいます。乾燥条件においた樹木を用いてラベリングを行うことで、環境条件が炭素配分に与える影響を評価したり、朝と夕にラベリングを行うことで、光合成の時間帯が樹木内の代謝に与える影響をみたりしています。いくつかのアイデアは数年前から温めていたもので、実験できる楽しさとともに、新しい研



左上：ナンシーのスタニスラス広場でトレーニングコースの学生たちと、右上：ボルドーでの実験 (右 Alexandre Bosc 氏 左筆者)、右下：ナンシーの実験チャンパー、左下：世界遺産でもあるボルドーの街並み

究者が加わることで新しい方向に動いたりして、研究活動に人が関わることによるダイナミクスを実感しています。

研究面では研究者だけでなく、技術者やラボテクニシャンなど働いている人の層が厚く、どの研究もチームワークで進んでいきます。この分析は誰が専門で、こちらの解析は誰が専門、またそこに学生の参加があり、そして誰かがバカンスだと全く進まない・・・初めはチームワークの中にある個人性の強さに疲弊しましたが、何かあったときにその問題を解決する速さと、例外を認める潔さは全く日本人とちがうという印象を受けました。

またナンシーでは6月に博士課程の学生を対象にした安定同位体トレーニングコースが1週間にわたり開催されました。午前中は研究者による講義、午後はグループごとの実験、最終日に発表会を行うというもので、京都大学からの参加者も含め、16名の国際色豊かな学生が参加しました。私が行っている野外実験も学生実験の対象となり、関わることになりましたが、運営にはかなりの準備が必要であるにもかかわらず、多くの研究者、技術者が熱心に取り組んでいました。ナンシーは安定同位体を用いた森林研究において、ヨーロッパの中心地になることを目標としており、特に INRA ナンシーにおいては各測定ファシリティを整え専門の技術者を配置しています。博士課程学生にとって、研究を進めるうえで、問いに答えるツールとしての各種安定同位体の利用の門戸を開いておくことは重要であるという観点に立ったものですが、同時に主催者側も各国に帰った参加者によってナンシーが宣伝されることを期待しているようで、感心しました。

野外実験のほうは大部分が終わり、ラボワークと解析が待っています。いい結果をまとめられるように、また今後の交流にも貢献できるように、尽力していきたいと思います。

Dispatches from researchers involved in the JSPS Future Earth program (5): Studies in Tanzania and Cameroon

By Ryosuke Kubo, JSPS research fellow, GSGES

As a researcher in the JSPS Future Earth program, I have been studying the cultural practices associated with alcoholic beverage consumption in sub-Saharan Africa, alongside Professor Kilasara at the Sokoine University of Agriculture in Tanzania and Associate Professor Fonteh at Dschang University in Cameroon.

頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラムの派遣研究員として、筆者は2014年度と2015年度に渡ってアフリカのタンザニアおよびカメルーンに滞在し、両国において利用される地酒の造り方について研究しています。タンザニアではモロゴロ州にあるソコイネ農業大学の Kilasara 教授に、カメルーンでは西部州にあるチャン大学の Fonteh 准教授にそれぞれ受入研究者となって頂いています。

筆者の研究はフィールド調査を基にして行われます。そのため、筆者は派遣期間中の多くをフィールド調査地で過ごし、そこで地酒の造り方についての調査を行ってきました。フィールド調査地は、タンザニアではムベヤ州にある



ブピグ村、カメルーンでは東部州にあるアンドン村と南部州にあるピチリ村という所です。各フィールド調査地にはそれぞれ固有の文化・慣習が存在し、フィールド調査を行う上では各地における文化・慣習に則った生活を行うことが重要です。しかしながら、私達日本人がアフリカの文化・慣習を理解し、それらに則った生活を行おうとする際には、様々な困難に直面します。本派遣では、アフリカにおけるフィールド調査に精通した Kilasara 教授と Fonteh 准教授の両先生方に、フィールド調査に関する様々な手ほどきを受けました。カメルーンのピチリ村で行われたフィールド調査では、Fonteh 准教授に帯同して頂き、地酒造りを調査する上で着目すべきポイントといった研究に関する事柄だけでなく、村人と円滑にコミュニケーションをとる方法といった生活面における指導もして頂きました。

現在はタンザニアのソコイネ農業大学に滞在しています。ソコイネ農業大学のあるモロゴロという町はウルグル山地の麓にあり、豊かな自然に囲まれています。大学近くを散策するだけでも、マンゴー、パパイヤ、バナナ、アボカド、その他名称不明の様々な果物の木が見受けられ、モロゴロの豊かな食生活を垣間見ることが出来ます。また、ウルグル山地では土食といった興味深い食習慣も存在します。今回のタンザニア滞在では、Kilasara 教授の指導の下、モロゴロ周辺における新たな調査地の開拓にも勤しんでみたいと思います。



The field survey about palm wine making with professor Fonteh (left) in Bitylli village, Cameroon.

Ms. Tokitoh, a student in the global environmental studies course, was presented with an award from the association for rural planning (April 11, 2015)

By Narumasa Tsutsumida, assistant professor, GSGES

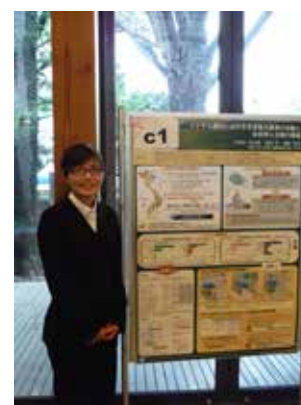
A poster presentation by Ms. Minori Tokitoh at the 2015 spring research conference received an award from the association for rural planning (Tokitoh M, Saizen I, Asano S. "A study on the actual situation of mixed farming and issues associated with assistance provided in the form of livestock in a rural area of Vietnam").

2015年4月に開催された農村計画学会春期大会において地域資源計画論分野 博士後期課程 時任美乃理さん

さんが以下の題目にて発表を行い、ポスター賞を受賞しました。

時任美乃理, 西前 出, 浅野悟史. ベトナム農村における有畜複合農業の実態と家畜導入支援の課題

(リンク先: 農村計画学会) http://www.rural-planning.jp/?page_id=82



Assistant Professor Atsushi Takai wins the Yamada Kazuie Award (June 6, 2015)

By Toru Inui, associate professor, GSGES

Atsushi Takai, Assistant Professor of Environmental Infrastructure Engineering, received the Yamada Kazuie Award from the Maeda Engineering Foundation. The Yamada Kazuie Award is an award bestowed for an outstanding PhD dissertation in the fields of civil engineering and architecture - in recognition of its novelty, originality and future potential. His PhD was submitted in 2014 at the Graduate School of Global Environmental Studies and was entitled "Geoenvironmental Reliability of Soil-Bentonite Mixture Cutoff Walls."

The certificate was presented by the Foundation Director Hajime Okamura (Professor Emeritus at the University of Tokyo and Kochi University of Technology) at an award ceremony held on June 5, 2015, at the World Trade Center Building in Tokyo.



社会基盤親和技術論分野の高井助教が、公益財団法人前田記念工学振興財団の平成27年度山田一宇賞を受賞しました。山田一宇賞とは、新規性・独創性に富み将来有用性が期待できる、土木・建築分野の博士学位論文に対し授与されるものです。対象となった論文は平成26年3月に地球環境学舎より博士学位が与えられたもので、題目は「Geoenvironmental Reliability of Soil-Bentonite Mixture Cutoff Walls (ソイルベントナイト遮水壁の地盤環境的信頼性)」です。

授賞式は平成27年6月5日に世界貿易センタービルにて開催され、前田記念工学振興財団の岡村甫理事長(東京大学名誉教授、高知工科大学名誉教授)から表彰状と目録が授与されました。



■ ■ ■ お知らせ / Announcement ■ ■ ■

GSGES to hold an international symposium in Da Nang, Vietnam (July 27-29, 2015)

By Kazuyuki Oshita, associate professor, GSGES

GSGES, the University of Da Nang, and the Da Nang University of Science and Technology, sponsored by the Japan Society for the Promotion of Science (JSPS) Core-to-Core Program, are organizing the Third International Symposium on the Formulation of the Cooperation Hub for Global Environmental Studies in the Indochina Region and the tenth Inter-University Workshop on Education and Research Collaboration in the Indochina Region. These events will take place on July 27 at the University of Da Nang, Vietnam, and from July 28-29 at Hue.

At this symposium, researchers from Japan and various other Asian countries will discuss the current status of global environmental issues and share future perspectives with representatives from a number of environment-related Japanese companies.

The 37th annual symposium by the association of Environmental & Sanitary Engineering Research (July 31, August 1, 2015)

By Kazuyuki Oshita, associate professor, GSGES

地球環境学堂は、第37回京都大学環境衛生工学研究会シンポジウムを京都大学百周年時計台記念館国際交流ホールにて共催します。本行事は京都大学環境衛生工学研究会により毎年実施されるシンポジウムであり、環境衛生工学分野の京都大学内外の研究者・実務者より、約40件の最新の知見の発表および意見交換が行われます。ぜひ皆様ふるってご参加ください。詳細は下記のウェブサイトを参照ください。

<http://www.env.kyoto-u.ac.jp/kyoeiken/sympo/prog2015.pdf>

International year of soils traveling exhibition "What is soil?" (September 2-13, 2015)

By Hitoshi Shinjo associate professor, GSGES

地球環境学堂は、国際土壌年 2015 を記念した土壌巡回展を京都大学総合博物館において共催します（主催：埼玉県立川の博物館）。2014年12月5日の世界土壌デーから始まる1年間は国連の定める国際土壌年です。この企画展では、土が私たちの身の回りの多くの事象に深くかかわっていること、土壌が地球上にある生態系の鍵となる存在であることをわかりやすく解説しています。京都大学所属の学生・教職員は無料で観覧できますので、ぜひ足をお運びください。

掲載記事の募集について / Seeking Articles for Sansai Newsletter

第12号のニュース・レターへの記事の掲載をご希望の方は、ges-sansai@ges.kyoto-u.ac.jp までご連絡ください。

To contribute to Sansai Newsletter No. 12, please email ges-sansai@ges.kyoto-u.ac.jp